

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「登場人物の心情の変化に着目して読み、物語のみりよくを伝え合おう」 教材名「大造じいさんとガン」

2 単元の目標

人物の心情や情景を表す語句の意味と使われ方を確かめ、紹介文で使える。人物の心情の変化から考えた物語のおもしろさを伝え合い、友達の根拠や見方を受けて自分の考えを広げられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①人物の心情や情景を表す語句の意味と使われ方を確かめ、紹介文で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「読むこと」において、人物の心情の変化から考えた物語のおもしろさを伝え合い、友達の根拠や見方を受けて自分の考えを広げている。 (C(1)カ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

大造じいさんがガンを見る目の変化を、前後の行動や情景を比べて考え、物語のおもしろさを紹介する。人物がよい人か悪い人かという判断に固定せず、なぜ見方が変わったと考えられるのかを確かめる。学習指導要領のC(1)力を中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案では〔知識及び技能〕(1)オを活動に関わる事項として扱う。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

前半と後半の行動を並べ、間の出来事を矢印で結ぶ。情景から想像した場合も、その言葉のどの言葉から考えたかを確かめる。同じ根拠から異なる解釈が出たら両方を残す。おおむね満足できる状況は、人物の心情の変化から考えた物語のおもしろさを伝え合い、友達の根拠や見方を受けて自分の考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、大造じいさんの初めと終わりの行動への印象を記録する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○行動と情景を場面ごとに整理し、心情の変化を考える。	知①（語句や内容の整理）
	3	○見方が変わったきっかけを前後の場面と結び付けて説明し合う。	学習状況を見て支援する。
	4	○人物の変化を基に、物語のおもしろさを紹介する文章を書く。	学習状況を見て支援する。
	5 （本時）	○紹介文を読み合い、自分とは違う根拠や見方を確かめて追記する。	思①（発言・学習記録）
第3次	6	○初めの印象と比べ、場面を結び付けて読むことで考えがどう広がったかをまとめる。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (5/6)

(1) 本時の目標

人物の心情の変化から考えた物語のおもしろさを伝え合い、友達の根拠や見方を受けて自分の考えを広げられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「大造じいさんがガンを見る目は、初めと終わりでどう変わったと思いますか。その変化を生んだ出来事は何ですか」 【めあて】大造じいさんがガンを見る目の変化を、前後の行動や情景を比べて考え、物語のおもしろさを紹介する。 〈予想される児童の反応〉 ・ 同じガンでも前後で向き合い方が違っている。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「大造じいさんがガンを見る目は、初めと終わりでどう変わったと思いますか。その変化を生んだ出来事は何ですか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・ 同じガンでも前後で向き合い方が違っている。 ・ 行動を並べると変化のきっかけが見える。 ・ 友達は情景の表現を大事にしていた。	前半と後半の行動を並べ、間の出来事を矢印で結ぶ。情景から想像した場合も、その言葉のどの言葉から考えたかを確かめる。同じ根拠から異なる解釈が出たら両方を残す。 想定する難しさ：最後の行動だけで人物像を決める。自分の狩猟への賛否に話題がそれる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 人物の心情の変化から考えた物語のおもしろさを伝え合い、友達の根拠や見方を受けて自分の考えを広げている。 (発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・ 友達は情景の表現を大事にしていた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「大造じいさんがガンを見る目は、初めと終わりでどう変わったと思いますか。その変化を生んだ出来事は何ですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

